



世界で一番贅沢な「骨」



国籍	ミャンマー
職種	電子機器組立て
実習実施者	パーソルファクトリー パートナーズ株式会社
監理団体	ジェー・オー・ビー協同組合

ニン テツ テツ ウイン
HNIN HTET HTET WIN

私には人生で最も尊敬し、大切に思う人がいます。それは私の母です。母について話すとき、父のことも思い出します。父は私が二歳の時に亡くなり、思い出はほとんどありません。それ以来、母は女手一つで私を育てるために懸命に働いてくれました。

母は女性一人で貧しさや疲れをすべて背負ってきました。娘の私を他の家の子と同じように不自由なく育てるために必死に働いてくれたのです。ある日、家にお金がなくて卵一つしか買えないことがありました。母は私のお弁当にその卵焼きを入れ、自分のご飯だけで食事を済ませていました。また鶏肉を食べる時、母はいつも「お母さんは肉より骨が好きなの」と言って私に一番いい部分をくれました。子供だった私は、母は本当に骨が好きなのだと思っていました。しかし大人になった今、それは私にお腹いっぱい食べてほしかったという母の深い愛だったのだと気づきました。

母は借金に追われ、頭を下げることもありました。その姿を何度も目にしましたが母は私の前では決して弱音を吐かず、私が肩身の狭い思いをしないよう気を配ってくれました。母は十

分な教育を受けていませんでしたが私の教育のためにできる限りのサポートをしてくれました。母は常に私を優先して生きてくれました。

現在、私は家族と離れて日本で働いています。言葉や文化が違い孤独を感じる日もありますがそんな時私を支えてくれるのは母の存在です。「お母さんがついてるから体に気をつけて頑張ってね」という母の想いを思い出すと勇気が湧きます。母からの励ましの言葉こそが私にとって何よりの「仕送り」です。

仕事から帰った時、真っ暗な部屋には誰もいません。心細い時一番に思い浮かぶのは母の顔です。母との電話で「元気?」「ご飯は食べてるの?」という母の優しい声がどれほど私の心を温めてくれるか分かりません。

今、私の一番やりたいことは母に恩返しをすることです。幼い頃から父の愛を知らず、家族が揃っている家庭を羨む時もあります。しかし母がその穴を埋めるように精一杯の愛を注いでくれたことに、心から感謝しています。母という宝物を私はこれからも一生大切にしていきたいです。

最後に読者の皆さんに伝えたいことがあります。当たり前だと思っている日常は誰かの深い愛に支えられています。お母さんに「ありがとう」と伝えるだけでお母さんは幸せな気持ちになります。どうかその言葉を惜しまないでください。更に後悔しないように親が健在なうちにその大切さを噛み締め感謝を伝えるべきだと思います。私も母への感謝を胸にこれからも毎日を力強く歩んでいきたいと思っています。父がいないうちに寂しさや経済的な苦勞など欠けていたものは多くありましたが母の娘であることは私の一生の誇りです。お母さんの子供に生れてきて本当によかったです。